

オニオコゼの棘刺事故の一例

沖永良部徳洲会病院

渡部 佳右

藤田建、川上暢子、徳涼子

佐々木紀仁、天野博哉、小林純郎

症例

【患者】73歳 男性

【主訴】左足部痛

【現病歴】網にかかった魚を引いていたら、中に入っていたオニオコゼに足を刺された。痛みが引かないため、自らの足で病院へ向かったが我慢出来ず、消防署より救急車にて搬送

【既往歴】胆嚢炎，高血圧，糖尿病

【生活歴】喘息・アレルギー：共に無し

飲酒：ビール1缶/日

来院時現症

【意識レベル】清明

【バイタル】血圧：184/92、
心拍：111、Sat.98%

【身体所見】左足部痛（疼
痛レベル：大腿近位端
付近まで上行）

【L/D】

特に異常なし





処置

- 救急隊がお湯に浸したタオルを患部に巻き付けて搬送.
- 来院後、40～45℃のお湯の中へ患部を浸し続けた.
- 約2時間後、疼痛は殆ど消失. 患側足が腫脹しているのみとなり、この日は帰宅. (念のため、鎮痛剤をiv)

オニオコゼ

(鬼虎魚: *Inimicus japonicus*, Demon Stinger)

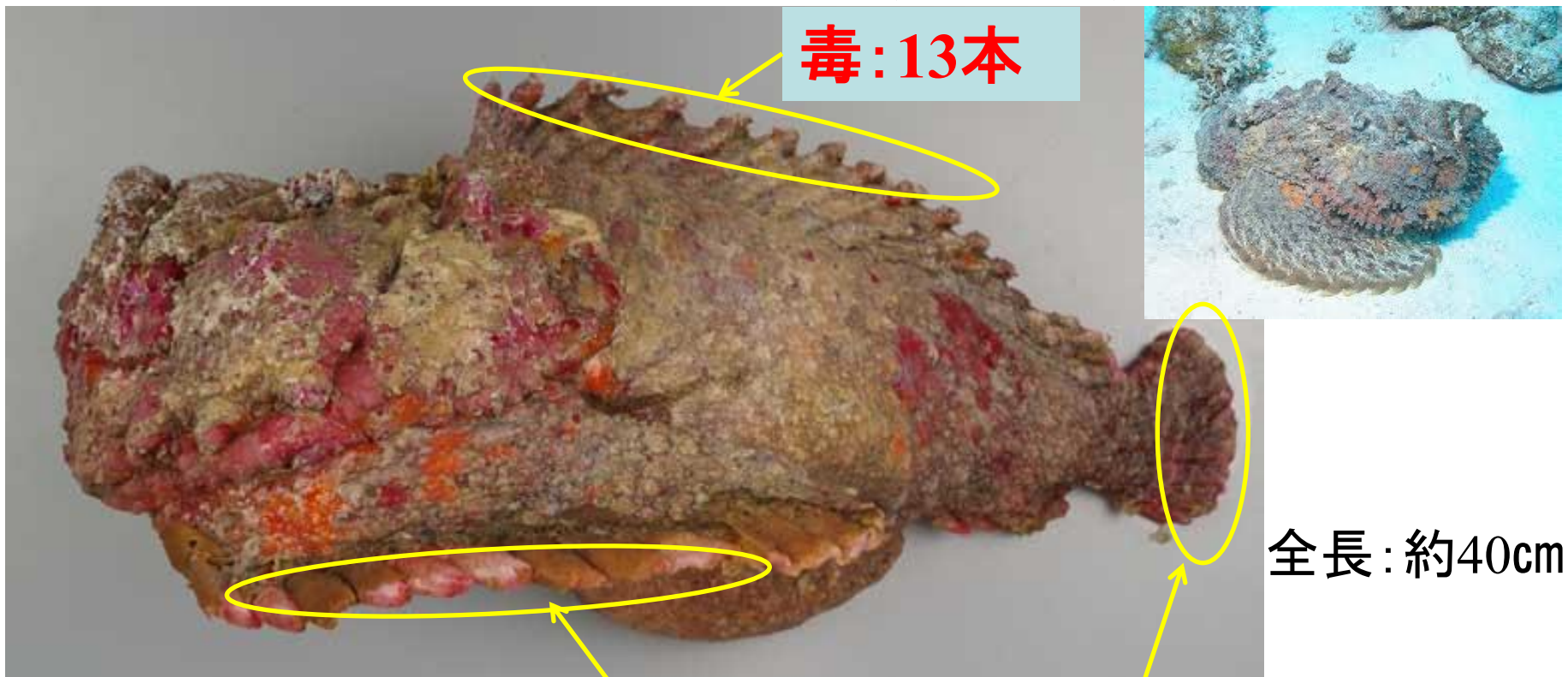


全長20~30cm、食用。

棘の付け根にある毒腺から毒が注入される。

オニダルマオコゼ

(鬼達磨虎魚: 英名 / Stonefish, Devilfish, Poison fish)



毒: 13本

全長: 約40cm

毒: 2本

毒: 2本



- 全身がコブ状の突起やくぼみに覆われ、岩に擬態する。

最強と言われる「オニダルマオコゼ」の毒とは...

- 1995年 精製(ガルニエール博士ら)
- ベルコトキシン (verrucotoxin)
- 分子量:322,000
- マウスの致死量:47 μ g/kg
溶血活性と毛細血管透過性亢進活性
ハブの30~80倍
- 50 $^{\circ}$ Cの熱を加えると毒性は失活.
- オーストラリアでは「オニダルマオコゼ抗毒素 (Stonefish Antivenom)」馬血清あり。

さて、今回の場合...

では今回の患者さんは...



- 翌日、水泡が出現したが、水泡の出来ている場所がサンダルの鼻緒のラインと似ており、その刺激で形成された可能性がある。
- 疼痛は出現せず。
- 独居であり、オニオコゼでの死亡例を知っており、水泡形成により不安が増大し入院。翌日、水泡の緊満感増大。
- しかし...



オニオコゼに刺されて死亡？

- 2010年8月5日、沖縄県名護市の海岸
- 58歳のダイビングインストラクター
- 「オコゼに刺された」と叫んで助けを求めた直後、意識を失って倒れ、搬送先の病院で死亡が確認された。男性の左足の裏にはオコゼのものとみられる刺し傷が見つまっている。
- 叫んで助けを求めた直後に意識を失い倒れたという。
→症状の進行が劇的に早い
- 毒そのものではなく、職業柄、過去に刺されたことがあり、それに伴うアナフィラキシーショックによる死亡の可能性が高い。

最後に...

- スキューバダイビングなど南の海を満喫されることと思いますが...
- 素足はもつてのほか、軽装で磯を歩かない。
- 見慣れないものには触らない、近付かない
- 以上2点に留意し、残り僅かとなった離島研修を謳歌しましょう！